



講演申込締切りは来年1月です

横浜で開かれる IAMAP-IAHS '93 まで残すところ1年を切り、準備もだいぶん具体的になってきました。

例えば、

- 気象学会では実行委員会をはじめ、学術、財務、登録、会場、接遇、展示の各専門委員会が会合を重ねてきました。そこでは基調講演の依頼やセッションスケジュールの割り振りからレセプションやバンケット、テクニカルツアーの企画まで、幅広い内容が提案・検討されています。また、セッションの削除や追加もありそうです。この8月末に発行されるセカンド・サーキュラー（ファイナル・サーキュラーでもあります）にはこれらの検討結果が掲載される予定です。

- IAHS 側との合同募金委員会が組織されました。登録料は早期登録料（1993年4月15日までの予定）が三万円に設定されましたが、これだけの会議になるとそれだけでは経費が出ず、多くの団体へ寄付のお願いに行かねばなりません。そのための組織が合同募金委員会で、和達清夫氏を委員長に各界の第一人者が委嘱されています。会員の皆様のお手元にこの「天気」が届くころには、募金委員会の活動も始まっているのではないのでしょうか。

さて今回の IAMAP '93 は IAHS との合同会議ですが、IAMAP, IAHS それぞれの習慣を持ち込んでいる

ためにいろいろとわかりにくい面ができてしまいました。その典型が登録の方法と期限でしょう。IAHS では査読を通過した講演予稿をプロシーディングスとして事前に出版してきたのに対し、IAMAP では要旨集の配布だけでした。今回の合同会議でもその習慣は踏襲されていて、IAHS が中心となっているセッションでは査読付きのプロシーディングスを事前に配付し、IAMAP が中心となっているセッションでは要旨集のみを配付することになっています。この違いが「IAMAP, IAHS どちらの Mailing List に登録するのか」というファースト・サーキュラーの表現にもなり（この表現はセカンド・サーキュラーでは改められます）、講演申込期限がシンポジウムやセッションによって違うということにも現れています。即ち、IAHS が中心となっている J3.1, J4.2, H1-H4 のシンポジウムやセッションでは去る3月で講演申込が終了したのに、IAMAP が中心となって企画しているもの（上記以外のシンポジウムやセッション）では来年の1月31日が講演申込期限となっています。気象学会会員の皆様の場合、後者のセッションに申し込まれる方が多いのではないのでしょうか。講演申込締切りまでまだ半年近くも余裕があります。多数の講演申込をお待ちしております。

（里村雄彦）